



校訓「自主」「練磨」「創造」

〔篠栗北中HP (Facebook)〕を公開中!!

生徒数329名

	男子	女子	合計
1学年	39	61	100
2学年	73	47	120
3学年	61	48	109

<感謝と共生のある学校に向けて>

北中重点目標 『心の挨拶』

○11月25日(金)  
篠栗町読書感想文コンクール表彰式

11月25日(金) 篠栗町読書感想文コンクール表彰式がクリエイティブで行われました。

多数の応募の中から、今年度も本校から6名の入賞者が表彰されました。



○12月12日(木)

世相を表す今年の漢字が「戦」に決定!!

12月12日(木) 世相を表す今年の漢字が「戦」に決定しました。皆さんはこの「戦」から、今年をどう振り返りますか。

社会がコロナ禍や戦争、物価高など厳しい状況の中で、皆さんが日々、目標に向かって努力している姿に感謝しています。

来年は、共に安全・安心で、活気のある学校生活を創っていききたいものです。



R4年度中体連新人大大会等の結果 <敬称略>

部活動	結果
女子ソフトテニス	筑前地区新人大大会 (団体) : 優勝 (県大会出場)
	福岡県新人大大会 (団体) : 3位 (九州大会出場)
吹奏楽部	福岡県ソフトテニス連盟主催ジュニアソフトテニス選手権大会 (個人) : 優勝 深澤里菜・中村明愛ペア (九州大会出場)
	第51回福岡アンサンブルコンテスト 木管打楽器 八重奏 : 銀賞
技術科	第22回 全国中学生創造ものづくり教育フェア 木工チャレンジコンテスト九州地区大会 1年1組 田代 士結 : 準優勝 (全国大会出場)
	第72回社会を明るくする運動 作文コンテスト 2年生 小林 晴海 「犯罪者」というレッテル 糟屋地区 : 優秀賞 福岡県 : 西日本新聞社賞



○11月30日(水)~12月7日(水)  
全学年教育相談(三者面談)を実施

11月30日(水)~12月7日(水) 全学年教育相談(三者面談)を実施しました。保護者の皆様、ご多用な中、お越しいただきましてありがとうございました。

前号で、3年生には「自分の進路先は、自分で決定するように」と伝えました。そして、1・2年生には「今年を振り返って、学習や生活などで努力したことや困ったことなど、どんな小さなことでもいいから、担任の先生に伝えてください。」とお願いしました。

面談であった相談につきまちは、早急に対応していきたいと思えます。



頑張る3年生の自学



○12月5日(月)~16日(金)  
生徒会挨拶運動を実施

12月5日(月)~16日(金) 学年ごとの挨拶運動を実施しました。自治委員会の「挨拶5箇条を意識して」の呼びかけで行いました。

挨拶は、相手を生かすことができる魔法の言葉です。期間だけでなく、日々、習慣にしていってほしいと思います。社会自立する上でも大切です。



1月行事(予定)

1日(日)	元旦
9日(月)	成人の日
10日(火)	3学期始業式 給食無
11日(水)	3年生課題テスト 第一高校パラマ入試
12日(木)	第一高校パラマ入試
13日(金)	自治・専門委員会 第一高校パラマ入試
16日(月)	挨拶の日
19日(木)	私立高校専願入試事前指導
20日(金)	私立高校専願入試
23日(月)	ABCチェック 職員会議 SCの日
24日(日)	いじめアンケート
25日(月)	県立高校特色化選抜入試(~26日)
※定休日	4~6・10・16・23・30日
※部休日(土・日1回休)	10・16・23・30日 ※部活動完全下校 17:30

12月23日(金)2学期終了、明日から冬休み!

2学期終了、明日から17日間の冬休みです。健康に注意し、大いに学び、3学期を迎える準備を忘れないでください。

保護者・地域の皆様、今年も本校へのご理解とご協力を賜り、ありがとうございました。

※裏面に続きます。

第 72 回社会を明るくする運動作文 西日本新聞社賞 作品:「犯罪者」というレッテル

二年生 小林 晴海さん

「犯罪者」というレッテル  
 福井北中学校 二年 小林 晴海  
 「犯罪者」という言葉を聞くと、何を思い浮かべるだろうか。「悪い」「関わりたくない」「怖い」「自分は絶対になりたくない」「忌避するような言葉が、次々と脳裏に浮かんでくる。

しかし、そのようなイメージを過剰に持つてはいけないと思う。犯罪をしてしまった人の中にも、自分がしたことを見直し、更生に向けて努力している人がいるからだ。

そんな人々を、私たちはどう呼んでいるだろうか。更生しようとしているという事実を認識していなければ、呼び名は「犯罪者」になる。そして、彼らを避ける。そのことは、「悪い人だ」というレッテルを貼っていることになる。

そのレッテルこそが、更生を妨げているのではないだろうか。

犯罪者と呼ばれる人々は、犯罪をした

だ。犯罪を「する」人ではない。犯罪をした人も、立ち直ろうと決意し、周囲の人がレッテルを貼らずに社会の一員として接すれば、その人は更生する。実は私も、悪いことをしてしまい、その後行動を改めた人の一人だ。小学四年生の時だった。いつも一緒に下校している友達がいるので、他の友達と一緒に帰ることにした。その子の友達も一緒に帰った。下校中、人があまりいない道にきたときに、同じ学年のある人の悪口を他の人たちが言い始めた。それを聞いた私は、しばらくして悪口に加わった。だんだんその内容がエスカレートしていった。悪口は、その人たちと別れるまで続いた。なんとなく楽しかった。同じようなことが何度かあって、私は悪口の対象になった人を避けるようになってしまった。

三週間ほどして、私はそんな自分に疑問を抱いた。人の悪口を言うことを楽しいと感じる自分は、何かがおかしくなっているのでは

ないか。変わらなければ、もとの自分に戻らなければ、そう強く思った。その後、悪口を言い合うのを一切やめた。対象になった人を避けるのもやめた。

私の行動は、悪口を言い合った人にしか知られていなかった。しかし、笑いながら人の悪口を言い合う姿を誰かに見られて、私の行動が仲の良い友達や席が近い人に知られていたら、私は「悪いことをしている人」というレッテルを貼られたらどう思うだろうか。そして、集団の中で孤立したらどう思うだろうか。

そうやっていたら、私は自暴自棄になったり、素直に考え方を換えられなくなったりしていたに違いない。そうならなかったからこそ、私は行動を改めることができた。集団の中に、何事もなかったかのように受け入れられたからこそ、私は立ち直れたのだ。

犯罪をしてしまった人にも、同じことが言えるのではないだろうか。「犯罪者」というレッテルを貼って避けてしまうと、その人は

孤立してしまう。社会の一員として扱われていないと感じることもあるかもしれない。自分が周りの人に嫌なものを認めるような目で見られたらどう思うだろうか。そして、そんな環境では、更生しようという意欲がそがれてしまうのも当然だ。

このような理由で私は、犯罪をしてしまった人に、他の人と同じ態度で接することが、更生してもらう上で大切だと考える。心理的な抵抗などがあるかもしれないが、犯罪をしてしまった人と接する機会があったら、このことを気をつけてほしい。周りの人がそれをすることで更生する人がいる。そして、更生がうまくいかなかったとき、その人は犯罪者「する」人になるのだ。

これからの社会を考えた作文です。ぜひ、読んでください。

校長